

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	17029
課題名	乳幼児を持つ母親にとってのボランティア参加の意味 －異年齢交流による赤ちゃんふれあい体験を通して－
研究期間	西暦 倫理委員会承認日 ～ 2019年3月31日
研究の対象	2015年7月～2017年3月、旭川市の中学生赤ちゃんふれあい体験に親子ボランティアとして参加した母親
利用する試料・情報の種類	<input type="checkbox"/> 診療情報（詳細： ） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） <input type="checkbox"/> 血液 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ボランティアに参加した方の感想等のアンケート ）
外部への試料・情報提供	<input type="checkbox"/> 自施設のみで利用 <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究グループ内（提供先：旭川医科大学 ） （提供方法：回収したアンケートを共同研究者間で直接受け渡しを行う） <input type="checkbox"/> その他（提供先： ）（提供方法： ）
研究組織	・共同研究者：旭川医科大学医学部看護学科 教授 藤井智子 旭川市子育て支援部 母子保健課長 阿保理恵子 旭川市子育て支援部 母子保健課 主任保健師 山本真意 ・既存試料・情報の提供のみを行う機関：旭川ウェルビーイング・コンソーシアム オフィススタッフ 幡司正人
研究の意義、目的	旭川市では、市内の小中高生を対象に、いのちの大切さを伝え、親になるための準備学習として性教育に取り組んでいる。旭川市子ども条例では、子どもが社会の一員として自立する上で必要な社会体験活動として、異年齢交流による学びの機会を位置づけている。しかし、現在、少子化により日々の生活で自然な異年齢交流は難しい状況にある。旭川市では中学生の赤ちゃんふれあい体験に乳幼児を持つ母親による親子ボランティアの参加、さらに、大学生の参加を得て、乳幼児、母親、中学生、大学生の異年齢交流ができるよう工夫し運営している。そこで、本研究では乳幼児を持つ母親がボランティア活動に参加することの意味を母親の視点から明らかにしたいと考えた。 本研究は中学生の赤ちゃんふれあい体験に対する母親にとっての参加の意味を明らかにし、今後の母子保健・思春期保健対策への示唆を得ることを目的とする。
研究の方法	平成27年7月～平成29年3月、赤ちゃんふれあい体験事業に参加した母親を対象とした無記名自記式質問紙から、対象者の属性（子どもの年齢、性別）、自由記載（①事業の参加動機、②事業参加の感想、③中学生に伝えたいこと）を分析する。
その他	

お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>○照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先（研究責任者）： 所属：旭川医科大学医学部看護学科公衆衛生看護学 講師 氏名：塩川幸子 住所：〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号 電話：0166-68-2953</p> <p>○研究代表者：旭川医科大学医学部看護学科公衆衛生看護学 講師 塩川幸子</p>
---------	---